

4. 児童の保護と女性のエンパワメント（サクラ・プロジェクト）

(1) 活動報告（概要）

		助成元	日本社会福祉弘済会
国名	インドネシア	団体名	Kesuma Foundation (ケスマ財団)
責任者	Ms. Susiladiharti	担当 修了生	スアルニ（24期） Ms. Suarni
事業名	児童の保護と女性のエンパワメント（サクラ・プロジェクト）		
活動地	<p>ボゴール市はジャカルタ首都圏（JABODETABEK）を構成する西ジャワ州の都市で、人口は約 103.1 万人（2014 年）。</p> 		
活動報告（目的・内容、成果など）			
1. 事業計画概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ボゴール市の住民 100 名を対象として、児童保護や女性のエンパワメントに係る研修会を実施する。 2. 被虐待児 50 名を援助し、専門医へつなぐ。 3. 暴力の被害者である女性にカウンセリングを始めとしたエンパワメントプログラムを実施する。 <p>助成金額 25.4 万円</p>			
2. 目的・実施理由			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研修会を通じて、弱い立場にある子どもたちへの暴力を防止する。 2. サービス提供団体に照会（送致）するなどの援助を通して虐待を受けた子どもたちの支援を行う。 			

3. カウンセリングやグループでの収入創出活動を通して、弱い立場にある女性のエンパワメントを図る。

これらは、ひいては西ジャワ州の貧しい子どもたちの福祉の向上につながると考えている。

3. 実施内容と成果

助成金は、まず研修会を通じた、児童保護や女性のエンパワメント活動に活用された。研修会は、「良い子育て」「児童保護」「児童の権利」「5歳未満の児童の健康問題」「小規模ビジネスマネジメント」の5つのテーマで実施した。

これらの研修会には、コミュニティのメンバー100名（成人80名、未成年20名）が参加し、情報を共有することができた。なお、成人の参加者のうち女性は50名で、子育て世代の女性の関心の高さが伺えた。次に、助成金を用いて被虐待児等を援助し、専門医へつないだ。

人身売買の犠牲児童10名、被虐待児20名、学校を中退する可能性の高い児童2名、麻薬問題を抱えた児童1名の計33名は、施設に入所することができた。残りの17名の児童は、適切な福祉サービスを受けるため、それぞれ異なる機関に送致された。（政府機関へ10名、非政府組織へ7名）さまざまな理由で弱い立場にあった子どもたち50名は、この事業により福祉サービスを受けることができた。

また、残りの助成金は、弱い立場にある女性/母親、虐待被害者である母親の20名のカウンセリングおよび収入創出活動に活用された。女性たちは収入創出活動を通じて、20の小規模商店をワルン・カンブン（チマンガス村に3店舗、ワリンギン・ジャヤ村に17店舗）に設立することができた。

なお、このプロジェクトについての反響は大きく、地元の新聞記事で紹介された。また、インドネシア28州の地域福祉の比較研究を行っている研究者たちへプロジェクトについて紹介し、事業の必要性を訴えるなど広報活動にも尽力した。

4. 今後の展望

サクラ・プロジェクトの施設は、児童家庭支援センター、私設の保育・幼児教育施設（PAUD=Pendidikan Anak Usia Dini）、高齢者福祉施設などが併設されており、地域の福祉拠点として使用されている。

今回の事業は多くの利益をコミュニティ、特に子どもたちにもたらしたが、まだこのプログラムではカバーしきれない子どもが大勢いる。約500人の子どもたちが、いまだ弱い立場の貧困層に潜在しているとみられ、こういった支援を切に必要としている。地域の福祉拠点として、そういった子どもたちのためのプログラムを次々と開発していきたいと考えている。今後も継続的な支援をお願いしたい。